



## 史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

### No.23 学位授与式 今昔物語

#### ～ 黒色のガウンに包まれて ～



清泉女子大学の学位授与式は毎年3月15日におこなわれます。

吸い込まれるような春の青空の下、今年は大学院第32回・文学部第73回学位授与式が挙行政され、文学部282名、大学院修士課程6名、合計288名の卒業生・修了生が学び舎を巣立ちました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

さて、卒業生の皆さんは清泉女子大学の学位授与式と言えば、「黒色のガウン」「フード」「白手袋」と「帽子」の正装を思い出されると思います。一体、いつの時代からこのスタイルでの学位授与式となったのでしょうか。

今から72年前の1954（昭和29）年3月7日、清泉女子大学の第1回卒業式が挙行政されました。文学部21名、英文別科12名、計33名の卒業生が誕生しました。

卒業式には来賓として、秩父宮妃殿下、デル・カステリョ スペイン大使夫妻、田中耕太郎最高裁判所長官（開学時の理事長）他が出席され、祝辞を述べられました。

第1回の卒業式の様子は文学部1期生の卒業アルバムの中に収められています。壇上に並ぶシスター方と来賓の皆様、学長による式辞、来賓による祝辞の写真をはじめ、卒業生の姿もたくさん記録されています。

清泉女子大学 第1回卒業式  
文学部 国文学科・英文学科 1期生の皆さん



文学部 1期生 卒業アルバムより

清泉女子大学 第1回卒業式  
学長 マドレ・クララ・クラウフォード式辞



文学部 1期生 卒業アルバムより

清泉女子大学 第1回卒業式  
秩父宮妃殿下のご祝辞



秩父宮妃殿下の右側：マキシミアン・ド・フルステンベルク大司教 右隣：荒井勝三郎司教  
左側：田中耕太郎 最高裁判所長官（開学時の理事長）  
左隣：フランシスコ・テル・カスティリヨ スペイン大使

卒業生たちは「ガウン」「フード」「白手袋」「帽子」で正装しています。そう、このスタイルは1期生の時代から受け継がれてきたものだったのです！

当時の写真からでは生地の色や素材までは詳しく知ることはできませんが、きっと今と同じものだったのではないのでしょうか。

黒色のガウンに包まれて...



文学部 国文学科・英文学科 1期生



文学部 文化史学科 73期生

記録写真によると、学位記は学長より一人ひとりに手渡しされています。この風景は今日と何も変わりません。当時は「フード授与」の儀式もおこなわれていたようです。フード授与は卒業生が正式にその学位（学士・修士・博士）の保持者としての資格を有することを象徴する重要な儀式です。今は博士課程修了者へのみフード授与の儀式がおこなわれています。（卒業生数が増えてしまったというのも一因でしょうか…）

また、帽子の房ですが、これにも儀式があり、学位が授与される前は右側に垂らしていたものを、学位記の授与を受けた後に左側に位置を変えます。現在では最初から房は左側に固定されています。時代の流れとともに儀式が簡略されました。

卒業式の前後には集合写真の撮影もおこなわれていました。

今年の集合写真は奥庭で撮影することができました。（荒天の場合は講堂での撮影になります）

清泉女子大学 第1回卒業式  
文学部 国文学科・英文学科 1期生の集合写真



学位授与式に着用するガウン一式セットは「アカデミック・ドレス」「アカデミック・ガウン」と言われるもので、その歴史は古く、中世ヨーロッパの修道院にまで遡るようです。なぜ正方形の帽子を被るのか。本来のガウンは何色か。その歴史を紐解くことはまた別の機会に！

清泉女子大学 大学院第32回・文学部第73回学位授与式  
学長 山本達也式辞



清泉女子大学 大学院第32回・文学部第73回学位授与式  
文学部 文化史学科 73期生の集合写真



\*\*\*

「史料室だより」は清泉女子大学公式インスタグラムにて連載中です。